

書評

杉原丈夫著

『若越民話の世界』

三上 一夫

さきほど「福井県郷土新書」の第三集として、福井県郷土誌懇談会が刊行した『若

越民話の世界』の著者の岡山大学教授杉原丈夫氏は、昭和五十一年三月まで福井大学教授をつとめ、その間長年にわたり県下の民話、伝承を精力的に採訪し、それらを集大成した『越前若狭の伝記』（松見文庫）や、石崎直義氏と共編の『若狭越前の民話』（未来社）などは、大いに好評を博しているが、本書ではこうした研究業績をふまえて、特に興味ぶかい注目すべき民話を中心に、第一部神々と英雄（貴女流離・王子治水・竜女化現・末娘供身・魚王乞命・巫女永世・遊女遍歴）第二部常民の幸福（山田白滝・粟ぶく米ぶく・竜宮の呪宝・耳かけそうめん）の諸項目について、種々の関係文献による実証的研究視角から、鋭い解明のメスを入れたものである。この点、著者が、「本書においてわたしは、単に民話を紹介して解説するだけではなくわたし自身のやや大胆な考証をも提示しておいた。それは、わたしが、既成の知識を整理して手ぎわよく一冊の本にまとめることのみには満足せず、これまでだれも問いもせず、まして答えもしないいくつかの問題を論争的に投げ

かけ、民間説話の研究に新しい展開をうながしたいという切なる意図を有することに「まえがき」より」と強調しているところからも、執筆のねらいが如実にうかがわれ、民話研究者はもちろん、一般の教養人としてもぜひ必読に値する。

(新書版、本文一八〇ページ、頒価八〇〇円、申込先、福井県立図書館内福井県郷土誌懇談会、県下主要書店で販売中)